

講座名	緑を楽しむ講座習志野『森林や樹木のことわざや名句～後は・・・』		
開催日時	2023年 7月 8日(土) 10時 ~ 12時		
開催場所	習志野市 市民プラザ大久保	一般参加者	14名

活動概要

森林や樹木に関することわざや名句を題材に私が面白いと感じた事項について説明した。

1 「後は野となれ山となれ」

このことわざの「野」と「山(森林)」の順番に注目して、山火事や山崩れなどにより裸地となった所が時間の経過とともに草原から森林に変化していくこと。さらに、陽性の先駆樹種から陰性の樹種に変わり極相林となって安定する。千葉県は暖帯林に属するので極相林はシイ・カシ林になる。ただし、極相林といえども全ての樹種が陰樹という訳ではなく、老齢木などが枯れた後などにできるギャップには日が当たるため、陽樹が生育していることがあるなどの例外があることを説明。



2 「あらとうと 青葉若葉の 日の光」

芭蕉の奥の細道の句をもとに、青葉から若葉との順序に着目し、標高の低い所から高い所に季節が移って行くこと、このことは気候型において高い所への移動は北への水平移動とほぼ同じ効果であることを説明。



3 「在地願為連理枝 (地にあっては願わくば連理の枝とならん)」

白居易(白楽天)の長恨歌の一節をもとに、植物の細胞は柔軟性が高いので、同種が近くに生育しているとそれぞれの枝と枝、幹と幹などが互いに接触することがあり、その後も更に生長を続けると細胞同士がくっつき(癒合)一体化すること。これを連理と呼んで深く愛し合うことの象徴としたことを説明。

4 「筍(竹の子)親まさり」

先端にある生長点のみが生長する樹木とは違い、竹は節ごとにある生長帯が先端の生長点と同時に生長することにより驚異的な生長を実現することを説明。

5 「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」

空也上人絵詞伝が出典(とされている)このことわざの真偽を確かめようと、和歌に歌われているトチノキの実の殻と種を分離して水に入れ、その浮き沈みを確認した実験結果を説明。

6 「ナースツリー (ナースログ)」・・・倒木更新

倒木の上に苗木が生育する倒木更新について説明。日本語との命名の違いから英語圏の人たちとの考え方、文化の違いに言及。

7 ネムノキ・・・眠りの木

美智子上皇后作詞の「ねむの木の子守歌」を題材にネムノキが夜になると葉を閉じる眠りの木であることを説明。



F I C 講師 竹内 進

業務スタッフ 森池 執行 金井 吉埜 瀬山